

## この地とこれからも

この連載では、大和ハウス工業と石川県との深い縁を、「過去」「現在」の二つの視点からたどります。第2回は、石川県における団地開発の歴史と、「再耕」の取り組みを紹介します。

### 第2回

## 住民の皆様と共に、 まちを輝かせる

### 人口増に応えた団地開発

高度経済成長期は、日本にさまざまなひずみをもたらしました。住まいにおいては、都市部を中心とした住宅不足が大きな社会課題となりました。

これに対し、大和ハウス工業は民間デベロッパーを設立して郊外型住宅団地「ネオポリス」の開発を進め、多くの人々が夢のマイホームを手に入れました。石川県では1976年、加賀市・加賀温泉駅の北西にある丘陵地に、1460区画の「加賀松が丘団地」を造成しました。

### まちの「再耕」も責任

時代を経て、ネオポリスは少子高齢化や近隣の生活サービスの不足、空き家問題などに直面しています。

そこで大和ハウス工業では、過去に開発した団地を再び耕し、輝かせる「再耕」を掲げ、「リブネスタウンプロジェクト」を推進しています。

加賀松が丘団地では、地域内で意見交換会を実施し、そこで見えてきた課題を解決しようと、住民の皆様と力を合わせています。にぎわいづく



「再耕」が進む加賀松が丘団地。2025年7月には、地域団体「(一社)ひと・まち・みらい松が丘」が誕生し、地域の魅力向上への取り組みを本格化しています。



2023年10月の「第3回手作りランタンナイト」では、地域住民が作った約600個のランタンで町内会館が彩られました。

りの二環として、「ランタンナイト」「朝市」「スマイルまるしえ」「スマホ教室」などの交流の場を設けました。また、住民の皆様との共創の中で、住民主体でまちづくりを行う「一般社団法人ひと・まち・みらい松が丘」の設立を支援しました。

2023年9月には、大和ハウス工業は加賀市と持続可能なまちづくりの推進に関する協定を結び、空き家活用や移住促進に向けて連携していくことを確認しました。これからも地域の方々と共に加賀市と一般社団法人と大和ハウス工業が連携して、次の世代へと受け継がれる持続可能なまちづくりを進めていきます。



松が丘町内会館で開催された「住まい手会議」では、中学生から子育て世帯、高齢者まで、さまざまな世代の人々が参加し、意見を交わしました。

